

∞月の空の下

いちのみや(劇団かたかご)

登場人物

女 男

マンション下のゴミ捨て場。女が勢いよくゴミを漁る。そこに男がゴミ袋を持ちやってくる。が、女が夢中でゴミを漁り散らすので引いて見ている。女、奥に入ってゆき、男、素早くゴミを置き去ろうとするも、女と目があい、男一礼。

女 あなた、今日何の日か知ってる？

男 え、何の日？あー、燃えるゴミの日？ですよ

女、男の方をじつと見る。男、足がすくみ無言。

女、目を再びゴミに向け、ゴミを散らす

男、近くに、ゴミを置く。

と、女、そのゴミの方に走りゴミを払いのける

女 ここでもない

男 え

女 ちがう、どうして、ここじゃない

男 あ、すみません

女 ちがうちがう、どうしてなの、

男 え、あ、ごめんなさい

女 どうしてどうして

男 あー、でも、燃えるからこれ

女 (男を凝視)

男 燃えるから、燃えるゴミ

女 燃えるの？それとも燃やすの？
男 え？

女 そのゴミは燃えるの、それとも燃やされるの？

男 いや、それは

女 燃えるゴミじゃないの燃やすゴミなの、それが問題なの。

男 はあ、すみません

女、違うゴミ袋を漁る。その間、遠くで鐘の音。

男 …分別されてるんですか？

女 違うわね、おかしいわね

男 あ、えーっと、ちがうんですね

女 ないの、ここでなくしたはずだったのに、もしかしてもうなくなっちゃったのかしら

男 あ、探し物？奇遇ですね、僕も朝から、困ってたんですよ、携帯失くして

女 携帯？

男 ええ、スマホ

女 なにそれ

男 何って、え？

女 それは、アメリカのもの？

男 アメリカ？ええ、まあ、そうですね、iphone

女 あなたも忘れたの？

男 え？ああ、忘れたっていうか、家のどこかにあるんだろうけど、どっかいつちやって。

女 どこかへ行くの？どこへ行ったの、足でも生えるの？それとも翼？飛行機みたいに飛んでくのよね

男 いや、そうじゃなくて、失くしただけっていうか
女 だったらそう言ってよ、わからない

男 いや、わからないって…あ、あなたもなくなりましたん
ですか、スマホ

女 え？

男 いや、ほらさっきあなたも忘れたの？って

女 なんのこと

男 いやさっき、僕がスマホなくしたって言った時。

女 それが何だかわからない私。

男 え、いや僕の、こんな、小さくて、黒い。

女 黒いの？それは

男 え、あーはい

女 私のも黒かった、真っ黒だった。

男 あ、あなたのも

女 でも、だんだんと薄くなっていく。

男 あー、まあ

女 そして、いずれ消えて、みんな忘れる

男 え？なんのことですか

女 影

男 は？

女 焼きついた影が、消えていく。消されていく。

遠くで鐘がなる

女 落ちたの？それとも落とされたの？それが問題な

男 の。それがわからないの

女 どういうことですか

男 また落とすよ、それじゃ、絶対に。

鐘の音とともに溶暗

おわり